

# No. 1371

## アイデア生かして

— 第20回暮らしの発明展 —

発明の日の4月18日、皇太子妃、美智子妃殿下が東京日本橋三越で開かれた暮らしの発明展をご見学になりました。妃殿下は三木元首相夫人の案内で出展作品をひとつひとつ見てまわれ、特に実演コーナーでは作品を手取るなど興味を示されていました。この展示会は科学技術週間の記念行事として開かれたものでこととして20回目、今回は全国から100点以上の作品が出展されました。作品のどれもが日常生活の改善に役立つよう工夫がこらされています。収納できる三段ベットなどはなかなかのアイデア。訪れた人々はそのアイデアの豊富さにうなづくばかり。太陽熱を利用したソーラーポットは30周年記念大賞、労働大臣賞には包帯巻器が、また母乳器ばいばいには奨励賞が送られました。ちょっとしたアイデアでも暮らしの中に生きてきます。あなたもひとつ考えて見てはいかがですか。

## 光と風、そしていのち

— オランダ近代絵画展 —

壮大で美しい自然のなかに豊かな感情を表現したオランダ近代絵画。東京、池袋の西武美術館でオランダ近代絵画展が開かれています。今回はバルビゾン派と呼ばれるハグ派の画家たちからフランス印象主義の先駆者となったヨンキントまでオランダを代表する27作家の作品、65点が展示され、オランダ近代絵画を理解するうえで欠かせないものとなっています。レンブラントやフェルメールの伝統のうえに新しい美の世界を展開した19世紀の画家たち。きわだった感受性に響きあう自然と人間、そのオランダ近代絵画の多彩な流れのなかに実に豊かな美の世界が感じられます。

## 公害から観光へ

— 栃木・足尾 —

日本の公害の原点といわれる栃木県・足尾銅山。亜硫酸ガスのためはげ山になった山は、今も木がはえない。足尾町の歴史は銅山の歴史でもある。明治10年、古河市兵衛の手に移った銅山は、明治政府の富国強兵策に乗り、大幅に伸び、明治20年代には日本の銅の40%を産出する日本一の銅山に成長した。しかし、これに伴い公害も大きな問題となり、ついに昭和48年2月、420年の歴史にピリオドを打ち銅山を閉鎖した。活気にあふれ、繁栄を誇った町はゴーストタウンに変わり、急激に過疎化が進み、足尾は陸の孤島とさえいわれた。町では過疎化を脱出するため銅山の後を観光に利用することを計画。この4月23日オープンすることになった。トロッコに変わり、バッテリー電車が走る坑内、人形を使って歴史を再現、公害に触れた所が少ないが、銅山の歴史を知るユニークな銅山観光となりそうだ。